

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
VI 休 耕 田 (つづき)	1) DPA・MCP ・DCMU 水和 (つづき)	茎葉・土壌処理	隔年休耕田 全域。	ネ科、セリ科等 多年生雑草。	4月～7月。	100～ 150 (1～2回)		ように散布する。 2) a当り散布液量は 10～15 lとする。 3) 周辺の作物に飛散 しないように注意す る。
	3) Mon-39 液	茎葉処理	寒冷地以西。	一年生雑草、 イネ科多年生雑 草。	雑草生育初期。	④mL/a 一年生： 25～50 多年生： 75～ 100	全土壌。	1) 稀釈水量はできる だけ少なく茎葉に付 着するように散布す る。 2) 周辺の作物に飛散 しないように注意す る。

註： 1) アンダーライン(実線)は、本年度拡大された部分(なお、薬剤名のアンダーラインは、本年度はじめて
使用基準の作成されたもの)。

2) アンダーライン(点線)は、その一部が拡大されたもの。

昭和53年度畑作関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和53年度畑作関係除草剤の適用性試験成績
中央検討会は、昭和53年12月14日、日本都市セ
ンター(東京)において開催した。その結果を、
ここに報告する。

本年度供試された畑作関係除草剤は、定性ス
クリーニング3剤、作用性試験11剤、適用性試
験46剤のべ試験件数 206 件(大豆60件、小豆9
件、菜豆15件、落花生20件、とうもろこし24件、

陸稻3件、さとうきび20件、ばれいしょ16件、
かんしょ8件、こんにゃく10件、てんさい21件)
であった。

適用性試験は、「実」、「実・継」、「継」、
「継?」、「中止」の5種類に判定されたが、
これらの結果は第1表の通りである。

さらに、実用化可能と判定された薬剤の使用
基準は第2表の通りである。

第1表 昭和53年度畑作関係除草剤適用性試験成績結果判定表

区分	実	実・継	継	継?	中止
1) 大豆	NP-48 (Na) 水容(単・ 体)、B-3015・P粒剤、 トリフルラリン粒剤、 HSW-761 水和剤、	SL-501 液剤(単・体)、 アミベン液剤、MB-206 粒剤、DAC-893 水和 剤、SKH-01 水和剤、	BI-883 乳剤、SL-521 水和剤、MS-76 水和剤、 KC-781 水和剤、トリフル ラリン乳剤+DNBP液剤		

区 分	実	実 ・ 継	継	継 ?	中止
1) 大 豆 (つづき)	トリフルラリン粒剤+リ ニユロン水和剤 [現].	アラクロール乳剤+リニ ユロン水和剤 [現], POP水溶剤+起泡剤[現].	[現].		
2) 小 豆	NP-48 (Na)水溶剤(単 ・体).		アミベン液剤.		
3) 菜 豆	SSH-36液剤, HSW- 761水和剤.	NP-48 (Na)水溶剤(単 ・体).	BAS-3510 (酸) 水和剤 (体), BAS-3510(Na) 液剤 (体), SAP・プロメ トリン乳剤.		
4) 落 花 生	S-28乳剤, B-3015 ・P粒剤.	アミベン液剤.	CG-119乳剤, S-28・U 粒剤, SL-501・A剤 [現].		
5) とうもろこ し		ANK-553乳剤, SSH -43水和剤, B-3015・ P粒剤, アラクロール乳 剤.	CG-119乳剤, SSH-43 粒剤.		SSH-43 粒剤.
6) 陸 稲	ANK-553乳剤.		KC-781水和剤, トリフ ルラリン粒剤.		
7) さとうきび		SSH-43水和剤, B- 3015・P粒剤, VEL- 26水和剤.	HW-920微粒剤, SSH- 43粒剤.		
8) ばれいしょ	OK-622液剤.	ANK-553乳剤.	MB-76水和剤, AH- 501液剤, DCMU水和剤.		
9) かんしょ		SL-501液剤(単・体).	CG-119乳剤.		
10) こんに く	ANK-553乳剤.		S-28乳剤, SSH-36 液剤.		
11) て ん 菜	EPTC粒剤(体)(移).	BJL-121剤 [現] (直), LPO-01剤 [現] (移), NTN-77水和剤 (直).	BJL-119水和剤(移・直), BJL-119・S水和剤[現](移), BJL-120剤 [現](移・直), BJL-121剤 [現] (移).	PL水和剤 (直)	

注) (単)は単用処理, (体)は体系処理, [現]は現地混用, (移)は移植, (直)は直播である.

第2表 昭和53年度畑作関係実用化除草剤使用基準一覧表

区 分	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量	適 用 土 壌	適 用 地 帯	使用上の注意
1) 大 豆	SL-501	液	実・継	茎 葉	イネ科2 ~5L (北海道 2~4L)	15~20 mL/a	全 土 壌	寒冷地以北	単用処理又は、 体系処理：広葉 対象の既登録 土壌処理剤を 使用。

区 分	薬 剤 名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
1) 大 豆 (つづき)	アミベン	液	実・継	土 壌	は 種 後	100～125 ml/a	火山灰土	寒冷地以南	
	MB-206	粒	実・継	土 壌	は 種 後	400～600 g/a	火山灰土	寒冷地、暖 暖地、	
	NP-48(Na)	水溶	実	茎 葉	イネ科 2～5 L (北海道 2～4 L)	10～15 ml/a	全 土 壌	全 域	単用処理又は体 系処理：広葉対 象の既登録土 壌処理剤を使用。
	B-3015・P	粒	実	土 壌	は 種 後	400～600 g/a	全 土 壌	寒冷地以南	
	DAG-893	水和	実・継	土 壌	は 種 後	100～150 g/a	全 土 壌	寒 地	
	トリフルラリン	粒	実	土 壌	は 種 後	400～600 g/a	全 土 壌 (砂土・ 砂壤土 を除く)	寒冷地以南	
	アラクロール＋ リニュロン	乳 水和	実・継	土 壌	は種直後	20～40＋ ml/a ＋15g/a	全 土 壌	寒 冷 地	
	PCP＋起泡剤	水溶	実・継	土 壌	は 種 後	100 ml/a ＋0.2%	全 土 壌	寒 地	
	SKH-01	水和	実・継	土 壌	は種後から 出芽前	15～20g/a	全 土 壌 (但し、 寒冷地 は火山 灰土)	寒冷地以北	広葉雑草対象 (ソクサに効 果劣る)。
	トリフルラリン ＋リニュロン	乳 水和	実	土 壌	は種後～ 出芽前	20ml/a＋ 10～15g/a	全 土 壌 火山灰土	寒冷地以北 温 暖 地	
2) 小 豆	NP-48(Na)	水溶	実	茎 葉	イネ科 2 L～5 L (北海道	10～15 ml/a	全土壌	寒冷地以北	単用処理又は体 系処理：広葉対 象の既登録土

区 分	薬 剤 名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
2) 小 豆 (つづき)				2~4L)					壌処理剤を使用。
3) 菜 豆	SSH-36	液	実	茎・土	菜豆出芽前・雑草発生始期。	80~120 ml/a	全 土 壌	寒 地。	雑草発生前では除草効果が劣る場合がある。
	NP-48(Na)	水溶	実・継	茎 葉	イネ科2~4L。	10~15 ml/a	全 土 壌	寒 地	単用処理又は体系処理：広葉対象の既登録土壌処理剤を使用。手亡での検討。
	HSW-761	水和	実	土 壌	出芽前	30~40g/a	全 土 壌	寒 地	① イネ科に効果劣る。 ② 乾燥条件下では効果劣る。 ③ 大正金時に限定。
4) 落花生	S-28	乳	実	土 壌	は種後	20~40 ml/a	全 土 壌	温 暖 地	
						20 ml/a	火山灰土	暖 地	
	アミベン	液	実・継	土 壌	は種後	100~125 ml/a	火山灰土	暖 地	
	B-3015・P	粒	実	土 壌	は種前 (マルチ前)	400~600 g/a	全 土 壌	寒冷地以南	
5) とうも ろこし	ANK-553	乳	実・継	土 壌	は種後	20~40 ml/a	全 土 壌	寒冷地	
						20~30 ml/a	火山灰土	温暖地	
	SSH-43	水和	実・継	土 壌	は種後	6~8 g/a	火山灰土 〔砂土・ 砂壤土 を除く。〕	温暖地	覆土3cm 以上 厳守。
	B-3015・P	粒	実・継	土 壌	は種後	400~600 g/a	全 土 壌	寒冷地以南	
	アラクロール	乳	実・継	土 壌	は種後	30~50 ml/a	火山灰土	温暖地	
			実 S.45 判 定	土 壌	は種後	20~30 ml/a	火山灰土 沖積壤土 ~埴土	寒地~寒冷地	
6) 陸 稲	ANK-553	乳	実	土 壌	は種後	20~30 ml/a	火山灰土	温暖地以西	

区 分	薬 剤 名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
7) さとうきび	SSH-43	水和	実・継	土 壌	植付後又は出芽前	10~20 g/a	全 土 壌 (砂壌土は除く)	暖地, 沖縄県	春植, 株出.
	B-3015・P	粒	実・継	土 壌	植 付 後	400~600 g/a	全 土 壌	暖地, 沖縄県	春植.
	VEL-26	水和	実・継	土・茎	植付後～さとうきび2,3L期.	7.5~10g/a 10~20g/a	全 土 壌 (砂土は除く)	暖地, 沖縄県	春植, 株出. 春植, 夏植, 株出.
8) ばれいしょ	ANK-553	乳	実・継	土 壌	植付後又は萌芽前	20 ~ 30 ml/a	火山灰土	寒冷地, 温暖地	
	OK-622	液	実・継	茎 葉	萌 芽 前	20 ~ 30 ml/a	全 土 壌	寒冷地, 温暖地	
9) かんしょ	SL-501	液	実・継	茎 葉	挿苗後・イネ科2~5L.	20 ~ 30 ml/a	全 土 壌	温暖地以西	単用処理又は体系処理: 広葉対象の既登録土壌処理剤を使用.
10) こんちゃく	ANK-553	乳	実	土 壌	植付後又は培土後	20 ~ 30 ml/a	全 土 壌	寒冷地, 温暖地	
11) てんさい	BJL-21 〔PAC, フェンメディ ファム〕	水和 乳	実・継	茎 葉	発生始～揃期	PAC+ フェンメ ディファム 20+50 30+40	全 土 壌	寒 地	直 播.
	LPO-01 〔レナシル・ PAC・ フェンメディ ファム〕	水和 乳	実・継	茎 葉	発生始～揃期	レナシル・ PAC+ フェンメ ディファム 15+30~40	全 土 壌	寒 地	移植.
	NTN-77	水和	実・継	茎 葉	発生始期～揃期	40~50g/a	全 土 壌	寒 地	移植.
	EPTC	粒	実	土 混	移植直前	500 g/a	全 土 壌	寒 地	体系処理: PL水和又はフェンメディファム乳基準量使用. ① 多年生イネ科の多発地で体系処理とする.

区 分	薬 剤 名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
11)てんさい (つづき)	E P T O (つづき)								② 耕起後多年生イネ科の地下茎が地表に近い所にあると効果が劣るので、反転耕起に留意する。

注)。現地混用については、お互い農薬登録が必要とされるので、その点十分注意して下さい。

外 国 文 献 抄 録

除草剤の薬効と 土壌有機物との関係

Effect of Soil Organic Matter on the
Phytotoxicity of Soil-applied Herbicides
Field Studies, by Rahman, A.,
C. B. Dyson, & B. Burney.

N.Z. Jour. Exp. Agr., 6:69-75, 1978.

土壌が変わると除草効果が変わることは周知の通りで、土壌有機物との関係について検討した研究は非常に多い。けれども、それらの殆んどはガラス室とか、人工気象室で実施されたもので、圃場試験での例は少ない。本報は、ニュージーランドのハミルトン郊外の2km以内で実施された、有機物含量に差のある13の圃場試験の成績で、土壌処理剤の5薬剤を供試し、1972年から3カ年にわたっておこなわれたものである。土性はホロチウ砂壤土である。除草剤は、アラクロール、アトラジン、リニュロン、ターバシル、それにトリフルラリンを用い、濃度3段階、試験区面積12m²で、大豆、エンバクについて実施した。試験結果は80%抑制率を示し

た値と、土壌中の有機物含有率との関係から、薬剤毎に回帰係数を求め、統計的検討が加えられたものである。試験の結果から、薬効には作物間差異がない、回帰係数はトリフルラリンが $r = 0.92$ 、リニュロンが0.84、アラクロールが0.81、アトラジンが0.78で、ターバシルは0.64であったなどが明らかにされた。すなわち、トリフルラリンは土壌中の有機物が増加すると、それに伴って増量する割合が最も多くなるというわけである。ターバシルを除けば、一般的に言われているように、除草剤の水溶解度が高ければ、有機物が多いために不活性になる割合が反比例するという考えが、ここでもあてはまりそうである。著者らはさらに、供試した土壌の理化学性のちがいについて検討しているが、圃場の生産能力、酸性度、カチオン置換容量、容積密度、全窒素量などは薬効の変化に関係がないか、あっても非常に僅かで、結論的には主として有機物含有量によって影響されることがわかった。(中山治彦)